

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	13-022	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Cigarette smoking and alcohol drinking in a representative sample of English school pupils: cross-sectional and longitudinal associations. 英語学校生の代表集団における喫煙と飲酒との関連：横断的および縦断的検討		
<b>執筆者</b>		
Hagger-Johnson G, Bell S, Britton A, Cable N, Conner M, O'Connor DB, Shickle D, Shelton N, Bewick BM.		
<b>掲載誌</b>		
Prev Med. 2013 May;56(5):304-8. doi: 10.1016/j.ypmed.2013.02.004.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、コホート研究、青年期、縦断的検討、喫煙		23438762
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 喫煙と飲酒との関連について、英語学校生の代表集団において、横断的および縦断的に検討することを目的とする。</p> <p><b>方法：</b> LSYPE (the Longitudinal Study of Young People in England) より、2004年(14歳時)から2006年(16歳時)に喫煙しており、かつ2004年から2007年(17歳時)に飲酒していた13,635人の学生において、潜在性成長曲線モデルを用いて関連を分析した。</p> <p><b>結果：</b> 飲酒率は14歳時の26%から17歳時の71%まで、喫煙率は14歳時の12%から16歳時の27%まで段階的に上昇していた。社会経済的な地位が低い家庭の学生は喫煙率が高い傾向にある一方、常時の飲酒率は低い傾向にあった。喫煙と飲酒は14歳時には交絡因子を調整後も正の相関を認めた。喫煙および飲酒の経時的な増加率も正の相関を認めた。</p> <p><b>結論：</b> 喫煙と飲酒は14歳の時点で既に関連しており、社会経済的な要因、青年期の集団行動に影響を受けていた。より若年層に焦点を当てた、早期喫煙と潜在的に危険な飲酒習慣との関連を検討する、更なる研究が必要である。</p>		